

議長 会議を再開します。 (午後 1時15分)

々 これより、本山議員の一般質問を行います。4番本山議員。

4番 4番議員、本山でございます。よろしくお願いをいたします。

本山議員

それでは、通告に従いまして質問をいたします。今回の質問は、私たちが抱える地方の小規模自治体の課題について、コンパクトタウン構想に焦点を当てた一般質問を提起いたします。私たちの社会は、人口減少や高齢化に伴い環境問題や災害対策・住環境など、様々な課題に面しています。そのためより持続可能で住みやすいまちを実現するために、新たな地域づくりのアプローチが必要とされています。まず、コンパクトタウンの導入は、地域の魅力向上や住民の暮らしの質の向上など、多くのメリットが期待されているところであります。これから短期、長期で人口が回復する可能性は、まずございません。出生率の改善による自然増や、他の地域からの受け入れなどの社会増も、今の人口減少の趨勢すうせいを変えることは難しいと思います。しかし、自然増や社会増に力を入れることは、人口減少の緩和になりますが、それだけでは不十分で、実際の人口減少の現実を受けとめ、これに適用するまちづくりが重要と考えるところであります。川本町では、少子高齢化の現状や将来の人口推計を踏まえた重要課題の解決をめざし、弓市魅力化実施計画、地域公共交通計画、住生活基本計画、デジタル化推進計画、学校のあり方検討会、音戯館のあり方検討会、地域包括ケアシステムの拡充等を策定中であります。そして、今後目指すべき方向はコンパクトタウンであると、町長も言っておられます。川本町を含む小規模自治体とは、市町村の中でも人口が少なく、地方の特色や文化が残る地域を示すわけであります。こうした地域においては、人口減少や高齢化が進んでいる現状を踏まえ、コンパクトタウンの導入が注目されているわけであります。その理由は、コンパクトタウンが地域の魅力を生かしながら、人口減少や高齢化によるまちづくりの課題に取り組むことができると思惑があるからでございます。そこで今回の質問では、社会情勢や地域の現状を踏まえながら、コンパクトタウンについて議論を深めてまいりたいと考えています。よりよい川本町を実現するための方策を模索してまいります。1つ、町の考えるコンパクトタウンの思いは何かお聞きいたします。2つ目に、コンパクトタウンを実現するためには、地域のニーズに合わせたアプローチが大切であるが、課題は何か、お聞きいたします。3番目に、地域コミュニティの形成や活性化の支援と、住民の参加と協働をどのように進めるのか、お聞きをいたします。次に、昨年、47水害から50年が経ちました。そして、治水対策事業が瀬尻・久料谷、谷地区で、早期の完成に向け調査工事が進んでおります。今年、47水害で被災した町を活気づけようと住民有志が立ち上げました江川太鼓が結成50年の年を迎えます。1972年、江の川が氾濫して未曾有の被害を受けた川本町は、再起不

4 番
本山議員

能とまで言われておりました。町は絶望し、暗く打ちひしがれておりました。このような中、町の元気を取り戻すため、当時川本高校吹奏楽部を日本一に導いた竹内先生に指導を仰ぎ、太鼓の勇壮な響きに川本町の復興を託し、立ち上がったのが江川太鼓の結成の始まりとお聞きいたしました。大水害で再起を危ぶまれた町の復興の音が江川太鼓でした。様々な場面で人々の心を慰め、勇気づけ、希望を与えてきた江川太鼓は、今や川本町を代表する伝統芸能になりました。太鼓で様々な地域との橋渡しをする重要な団体でもあります。この50年の歴史とその発信力による地域活性化、国際交流は素晴らしい実績と評価するところでもあります。そこで、江川太鼓の50年の歩みを見ていますと、イベントへの出演は、多い時には年30回以上こなしたと言っておられました。そして、ドイツやフランス、デンマークなど、海外での演奏も多数ございます。特に、デンマークと江川太鼓の草の根レベルでの交流は、20年以上にわたり相互理解を図り、お互いに顔の見える関係を築いておられます。団体の皆様が個々に自分のレベルで、国際交流の成果を果たしておられると思います。そして今、デンマーク和太鼓グループは、川本町の入澤荘を購入されました。デンマークの子どもたちや観光客に川本町を訪れることで、リアル日本を体験して欲しいとの思いだとお聞きいたしました。自然の美しさ、おもてなしの精神、地方ローカルの文化をデンマークの皆様にも体験して欲しい。それと同時に、川本町の人々にもデンマークを理解してもらい、川本町の人々にも喜びと活力を与える貢献がしたいとの思いをお持ちだそうでございます。この交流関係は、地域社会の活性化や地域課題の解決のために、大きな可能性があると感じております。この友好親善交流の成果をベースに、今後も発展的、創造的に新たな交流活動を生み出していくものと思います。この民間レベルの活動がもっと活発になり、町民の皆様にご理解とご協力をもっと得られるようになれば、川本町の経済や観光への波及効果が大いに期待できると考えておるところでございます。そこで、この交流は、今後議論できる政策になりうると感じますが、町長のお考えを聞きたいと思っております。以上、よろしくお願いをいたします。

議 長

それでは、本山議員の質問のうち、1項目めの「コンパクトタウンの方向性を問う」に対する答弁をお願いします。番外伊藤まちづくり推進課長。

番外伊藤ま
ちづくり推
進課長

本山議員ご質問の1項目め、「コンパクトタウンの方向性を問う」にお答えします。第6次総合計画においては、まちの将来像として、助け合い・支え合う中で自分らしく暮らし続けられるまちを掲げ、人、物の交流の場として歩んできた川本町の歴史的背景を今一度見つめ直し、町民との協奏や外部との連携を図りながら、住民一人一人が自分らしく暮らすことができるまちを実現し、次世代につなげていくことを目指すこととしています。さらには、重点プロジェクトで弓市をまちの拠点として位置付け、生活機能の維持やにぎわいを創出するとともに、町内各地域が持続可能な新たな地域運営の仕組

番外伊藤ま
ちづくり推
進課長

みをつくり、あわせて弓市地区と他地域を結ぶ公共交通体系を構築することとしています。議員ご指摘の町の考えるコンパクトタウンへの思いは何か、につきましては、このまちの将来像を実現するために計画したこうした取り組みが、町が推進する方向性であると考えております。

次に、コンパクトタウンを実現するためには、地域のニーズに合わせたアプローチが大切であるが、課題は何かについてです。総合計画策定にあたっては、複数自治会ごとにエリアを設定し、自治会役員の方々を中心に地域の現状や課題の聞き取りを行いました。人口減少や高齢化により、生活に必要なサービス機能や地域コミュニティを維持していくことが困難になることへの不安や、地域運営を支える担い手不足など、共通して指摘があった課題やご意見を踏まえ、重点プロジェクトでは、生活を支える新しい地域運営の仕組みづくりを進めることとしているところです。また、地域運営の新しい仕組みを作るためには、住民主体の活動支援や将来的な自治機能の再編の話し合いも必要となりますが、まずは将来を支える世代が話し合いや地域運営に参画する機運や機会を作っていくことが、地域ニーズへのアプローチとして重要な課題であると感じております。最後に、地域コミュニティの形成や活性化の支援と、住民参加と協働をどのように進めるかについてです。地域コミュニティの形成や活性化支援については、本町の歴史的な繋がりや地理的状况を考慮し、公民館区よりも小さいエリアで地域運営の仕組みづくりを進め、生活機能が集中している弓市地区と他地域を結ぶ公共交通体系を整備するという総合計画上の方向性について、来年度策定に着手する立地適正化計画において、さらに具体的に示して進めていくべきであると考えております。住民参加と協働については、まちづくり意見交換会をはじめ、様々な場面で幅広い世代や立場の方からご意見を聞く機会を持つとともに、商工会など関係機関や民間事業者、また、近年活発に活動いただいているたすけあい川本や子育てグループなどの中間支援組織などとの協働体制を深めるべく、関連する機関との議論を重ねながら推進してまいりたいと考えております。

議 長

再質問ありますか。4番本山議員。

4番
本山議員

最初に、町の考えるコンパクトタウンの思いをお聞きいたしました。町長も最近よくお使いになる、コンパクトタウンの方向性でございますが、具体的にどのようなまちを目指しているのか。まだはっきりしていないように思います。基本的に、コンパクトタウンは高齢者をメインの構想で考える。拠点を賢くまとめていく必要があると私は考えておりますが、この点について町長はどのようにお考えでしょうか。

議 長

番外野坂町長。

番外

常日頃、私が就任以来、唱えておりますコンパクトタウンの定義でありま

野坂町長 すが、広く捉えればですね、先ほど議員高齢者とおっしゃいましたが、私はすべての世代ですね、そして、ここで生まれ育った方もよそから帰ってこられた方すべての方々ですね、心豊かに笑顔で暮らせる。そして、近年はそのあしてIT化の動きがあつてますので、そういった先進技術デジタル技術の利便性も受けながら、生活が快適にできて、そのようにこの街で暮らす方すべての方が感じて、川本で暮らして住んで良かったなど、こういう町、これを目指すことだろうなと思っております。そのことについてですね、個別な方向性というのは、午前中もそうでしたが、その中で具体的にはこういった方向性があるという形でお示しておりますが、総括して言えば、そういうことであろうなということであると思っております。

議 長 再質問ありますか。4番本山議員。

4番
本山議員 弓市魅力化計画などを見ていまして、幅広い層に行き渡るようにされておるといような感じは見えます。私は、様々な機能を歩いて行ける範囲内に凝縮したまちづくり、コンパクト、そういうまちをコンパクトタウンとして捉えておるわけですが、環境保護や中心市街地から離れて無計画や無秩序な開発の抑制や、中心市街地の活性化、そして交通弱者の支援など、そういう目的で推進されるものだというふうに思っております。まずはですね、高齢者が安心して住めるまちというのは、誰が住んでも素晴らしい安心して住める町になるんじゃないかという考えでございます。今、先ほどの木村議員の質問でもございましたように、様々な計画、交通、公共交通とか、いろいろ計画はたくさんあるんでございますけども、今ですね、コンパクトタウンが川本町のいろいろな課題解決に有効な対策であるという考え、この実現に向けてのですね、何が有効であろうかというところをちょっとお示してください、町長。

議 長 番外野坂町長。

番外
野坂町長 やはり、これは午前中の議論にも繋がりますが、国も、このですね、国交省の都市政策が転換されてきた背景はですね、今、議員冒頭おっしゃいました、人口減少そしてこれから社会の中でのまちのあり方をとらえた時に、この生活機能性が便利であることでこれ実現するためのですね、やはりキーになるのはですね、公共交通対策、これが一つのやはりキーであろうなと思っております。そのことの上でですね、やはりこの生活の利便性についてのニーズはですね、この今、情報化そしてデジタル化が進んでる中で、皆さんの求めるものが、日々刻々と変わっておりますし国もまさにデジタル田園都市国家構想を実現するための、これは人口減少対策としての町村政策を今はデジタルを活用してそっちに向かうということで、国の方も向かってきておりますのでこうしたことを意識しながら、町としてのですね、この川本らしい

番外
野坂町長

ものをより求めていくんであろうなと思っております。いつも言っておりますが、本町はですね、これまでの成り立ちの中でも、おそらくですねこの県下11町村がありますけども、今でも最もコンパクトタウンの様相を持っている町であると思っております。それを広げて述べるのであればですね、このたびこのコンパクトタウン化を求める、その実現に向かう施策として立地適正化計画に向かおうとしておりますが、これおそらくこれに向かおうとしてる自治体の中でも最もそのすでにコンパクトタウンの要素をそれなりに持っている町、そこがさらに全国のモデルとなるような、より今まで住んでいらっしゃった方がより便利で快適で交通のことも心配することなく、それは医療・介護・福祉も含めてですね、ここで良かったなという、ここに住んで良かったなと、一生ここに住み続けようと思っただけの要素があらゆる面で散りばめられている、そういう町、こういう町をすでに持っているものをさらにブラッシュアップしていくということであらうなと考えております。

議 長

再質問ありますか。4番本山議員。

4番
本山議員

あまり一概に答えられるような問いでもなかったと思いますが、誰のため何をどのようにするのかということですが、私は計画策定中のですね地域包括ケアの拡充というものがございました。これとコンパクトタウン構想を一緒に取り組んだまちづくりタウン構想といいますか、それは実現した場合には、先ほど町長が言われましたようにすべての世代が良くなるような、まちづくりを目指せるというふうに思いますので、私とその点は、一緒の考えだったなと今、理解したところでございます。次に、2つ目に、コンパクトタウンの課題についてお聞きしました。コンパクトタウンは、多様な主体が対話や協議を通じて、共通のビジョンや目標を探求し、その過程で課題や解決策を明らかにしていく必要があると思います。先ほど町長が言われましたように、弓市は昔からコンパクトタウンなコンパクトなまちが形成されております。当時は様々な業種の方たちが集まり、にぎわいをつくり、島根県下でもいち早く商工組織を設立し、現在の基礎をつくっております。昭和54年ごろには年間販売数が48億円、その邑智郡の中でも31%のシェアを占めるぐらいの川本町の規模でございました。大変な勢力を保った町でございます。しかし、先ほど言いました昭和47年7月に未曾有の大豪雨災害がございました。このときは被害総額が26億3千万にも上がったということでございまして、この水害はですね30年にも40年にも、この47年の水害とあわせて大きな水害が2回来ております。そのたびにですね、復興・復旧をたどってきた経緯がございまして。後に、官公庁の撤退などの要因もあって、現在の姿になっておるわけでございますが、まずはこの川本町の商店や事業所の今までの過程を顧みてですね、町長はどのように、今のまちの姿を思っておられますか。

議 長

番外野坂町長。

番外
野坂町長

私自身は、この私ども町のですね、いわゆる辿ってきた歴史を考えますと、やはり交流ですね、交流がビジネス及びビジネスが新しい交流及び、そしてその交流の原点は、当初は江の川の水運であり、これはいろんな場で申し上げてることと重なりますが、そのあと三江線となりJRバスとなり、今、島根中央高校ですね、交流のエンジンが、やっぱり町が成り立ってきた歴史背景っていうのは、やはりその江の川と切っても切れない中でその交流の中で、ビジネスが受けビジネスが新しい人と呼び込み、その呼び込んだ人がさらに新しい人を招き入れていると。その中で交流が集積及びそこに官公庁や、一大手企業の営業所等も出てきて、それに対する生活サービス提供機能が商業サービス業として充実されてきたと、こういう歴史的・文化的経過をたどって今があるのが、この町だというふうに私自身感じております。一方、江の川の負の面もありまして、何て言いますか築いてきたものをですね、そのフローで一気にストックを流されてしまうと、再び復興目指して築き上げたものですね、そういう歴史の中で今の街があるわけですけども、何よりも人ですね、人と物資の交流の中で成り立ってきた、そのまた集積した人へのさらなるサービス機能も含めて、それに磨きをかけて成り立ってきた、こういう歴史がある町であるし、またそのことがまたいろんな可能性をですね、将来また広げるポテンシャルを持った町だというふうに考えております。

議 長

再質問ありますか。4番本山議員。

4番
本山議員

今こうやってですね、なかなか事業承継もままならない、空き店舗も多くなる、そういう今、時代を迎えておるわけですが、それでもですね、この町にはまだ高校もあります。病院もあります。金融機関もあります。そして警察もあり、まだ合庁も縮小したとはいえ残っております。そして、飲食店も、まだそれなりにあります。これはですね、コンパクトタウンの町を形成するためには、もう放してはいけない機関だというふうに思っております。そういう中でですね、コンパクトタウンを川本町が形成していくためには、何とんでもこれらを守っていくということを、まず第一にお願いをしておきたいというところがございます。そしてもう一つ、財産がございます。川本町は大きく分けまして、弓市・因原・三原と大きな3地区に分けられます。それぞれに歴史や文化がありまして大きな特徴がございます。私は、この大きな塊、この地域を核とした3つのコンパクトな街を作り上げ、それらを地域交通でつなげる形が良いんじゃないかなというふうに思っておるわけですが、地域交通でまちを行き来するスタイルを築き上げる、定着させる、そういうことで環境経済への還元もできるんじゃないかなというふうに思っております。それと、公共施設の凝縮に合わせまして、農業振興や農地の維持、農地の保全もこれに関わって、この課題を解決していくことがで

4番
本山議員 きるんじゃないかなというふうに思っております。町長、このコンパクトタウンのですね、アプローチの仕方というのは今、私はそういうふうに申し上げましたが、何かお考えがございますか。

議 長 番外野坂町長。

番外
野坂町長 議員ご指摘のように議員のご質問、先ほど来、町の成り立ち・歴史、私もやはりそういうアプローチが極めて重要であると思っております。ご指摘のように、大きく今示しましたこの弓市そして因原・三原はですね、それぞれ歴史的な背景、或いは江戸時代、古来含めてですね、いわゆる行政統治がどこで行われたかとも含めると、それぞれ直轄領であったり浜田藩であったり、浜田藩であったエリアも一時期直轄領になったりとかですね、弓市直轄領そういったこれまでの積み重ねてきた歴史で行政統治がそういうことであるからそのエリアにおける暮らしのあり方も、おのずと変わって違っている、そういう歴史風土背景があるエリアがですね、大きくいうとやはり3つあると思われま。やはりそのそれぞれのエリアがですねそれぞれの強みを持っておりますので、議員おっしゃいましたように、三原エリアであれば農村振興ですねそういった強みをさらに活かす、そういうことを意識しながら、コンパクトタウンをですね大きく3つのエリア、ここを公共交通ネットワークで今風につなげていくということで3つのエリア同士の、それぞれの歴史・文化・風土をですね、お互いに尊重しながら連携することによって絆を深めていくという動きを積み重ねることがですね、これが川本ならではの全国どこにもない、私どもの町ならではのコンパクトタウン、これを全国に打ち出していき、そういうことになっていくんだろうなと考えておりますし、そうありたいと思っております。

議 長 再質問ありますか。4番本山議員。

4番
本山議員 それでは、次3番目でございますけれども、地域コミュニティの形成や活性化の支援と住民の参加と協働をどのように進めるのか、という問いをしました。総合計画におきましても、これは大きな根幹をなす課題だと思っております。小さな拠点づくりでご苦労されたのは知っておりますが、その成果が、このコンパクトタウンには活かされてくるものだと思いますが、活かせるものがございますか。まちづくり推進課課長、いかがでしょうか。

議 長 番外伊藤まちづくり推進課長。

番外伊藤ま
ちづくり推
進課長 小さな拠点につきましてはですね、川本町の場合は自治会より大きく、公民館の小さい単位で進めていくということになっております。なかなか今、総合計画以降ですね、取り組みを進めようということで、アプローチしてお

番外伊藤まちづくり推進課長

りますが、実際のところは三原地域の小さな拠点動き出して以降、具体的な動きはまだできていないのかなと感じております。やはり活かせるものということでございますが、そういった小さな拠点、それぞれのコミュニティが成り立ってきますと、先ほど来、話に出ております弓市を生活機能の中心として、それぞれが住み慣れたところで、しっかりと日常のコミュニティーを取りながら町全体です、生活機能であったり、暮らしをまわしていけるそんな仕組みができるのではないかなと思っております。ですのでまず小さな拠点の方もしっかりといいますか、すべての生活機能ではなくてです、身近なところで生活できる機能を維持できるようなコミュニティを、今後さらに構築していく必要が、仕組みを作っていく必要があるなど感じております。

議 長

再質問ありますか。4番本山議員。

4番
本山議員

確かに小さな拠点づくりで人を集め、そのリーダーを養成するというようなことはなかなか難しいことでございます。特に、自治会等の地縁型といいますか、地ですと縁のあるような人たちが集まってのコミュニティというのはですね、なかなか暗黙の了解で事が進みやすくてです、後から聞くと、なかなか自分はそこは納得してなかったとかです、そういう思いのずれが、多くあるというふうに私は感じております。一人一人に丁寧に聞くこと以外はですね、本当に難しいところでございます。ですから時間はかかりますけれども、他人ごとから自分ごとへ移行してもらうような工夫に心がけながらです、新しい支援型コミュニティーの作成といいますか、工夫をこれから再生に向けてです、やっつけていかなければ、このコンパクトタウン自体もですねなかなか難しいことになってくるんじゃないかというふうに思います。それでですね、今、まちづくりに関しましては、積極的に昔は地域に出られとったと思うんですけども、新しくまちづくり推進交付金というものを作られましたね。自治会単位で。それは手を挙げた人に手を挙げた地区に、それをあげるよと、交付するよという意味合いだと思いますが、そういうものではなくてやはり、まちづくりが主体的な取り組みをもって、積極的にですね、地域に出て行って話をするという方が、交付金ではねやっぱりちょっと、まちづくりが受け身に感じられます。ですからもうちょっと前に出て、ちゃんとコミュニティを取っていただきたい、というふうに思っております。その点に関してはどうですか。

議 長

番外伊藤まちづくり推進課長。

番外伊藤まちづくり推進課長

地域ごとの補助金について言われるように昨年度、制定をしておりますが利用されている自治会エリアはございません。おっしゃられるようにもう少し来年度はですね、こういった補助金を活用していただけるように、アプロ

番外伊藤まちづくり推進課長 一歩をしていかないといけないなということを感じております。ただですね、やはり非常にそのバランス、行政が主体になるバランスと、地域が主体になるバランスが非常に難しいなと思っています。これまでも補助金の中で、町の方が、行政の方が積極的にこれを使いましょうといったものに関しては、やはりやらされた感がですね地域の方であって、実際にこれじゃ終わった後に何か残ったのかなという、そこにちょっと私も疑問をまだ感じております。やはり議員おっしゃられるように地域のコミュニティを作っていくこと非常に大切だと思っていますが、やはり自主的に地域の方が、その補助金を使って地域を新しくしていこう新しい関係を作っていこう新しい仕組みを作っていこうという、先ほどご提案いただいたような考え方を持っていただかないと、補助金を使ってくださいというアプローチをしても駄目なんだろうなという感じを持っております。とは言いましてもですね、今年1年やって、どこも手が挙がらなかったわけでございますので、そういった行政の主体性と地域の主体性、このバランスを考えながら是非ですね、こういった事業を活用してもらって地域のコミュニティー、本当に先ほど言われた新たな関係、地域の関係づくり、こういったところができるような事業にしていきたいと考えております。

議 長 再質問ありますか。4番本山議員。

4番 本山議員 それはよろしくお願いをいたします。特定の目的のためにコミュニティを作ってもですね、参加をして欲しいキーマンが参加をしないというようなことがあろうかと思えます。キーマンのこの深い思いを聞く機会を持つことがですね、町と、その人の関係を築いていって、地域づくりにはですね、積極的にそういう人が参加をしてくれるような、そういう関係づくりを作っていくのがですね、やっぱり一番大切なんじゃないかなというふうな気がいたします。誰しもがいつまでも暮らしやすい地域づくり、どうすれば実現できるのか。医療・福祉・公共交通など、このまちづくりに対しましてはですね様々な視点から、人も地域も蘇らせるような、そういう解決策となるようなコンパクトタウンをですね、作っていただきたいと願っておりますので、よろしくお願いをいたします。これはこれで終わります。

議 長 以上で、1項目めの「コンパクトタウンの方向性を問う」の質問を終了します。

々 次に、2項目めの「江川太鼓の歴史とその発信力による地域活性化・国際交流の評価と、今後の展望を問う」に対する答弁をお願いします。
番外野坂町長。

番外 本山議員ご質問の2項目め、「江川太鼓の歴史とその発信力による地域活

野坂町長

性化・国際交流の評価と今後の展望を問う」にお答えいたします。議員からご紹介のありましたとおり、昭和47年の大水害からの復興の願いを込めて結成された江川太鼓は、平成2年団体初の海外公演である韓国訪問を皮切りに、フランス、イギリス、ドイツ、デンマークなど、ヨーロッパの国々を歴訪され、日本文化の伝承をもって、現地の人々との絆を育てられました。また、平成13年には、ドイツから吹奏楽団が来日。平成29年には、交流のあるデンマークの和太鼓グループが来日するなど、海外の交流団体が本町を訪れる際の手配や滞在中のホストファミリーとしての受け入れなど、細やかで活発な交流を重ねてきておられます。一方、本町では、過去に国際交流員の招致や、県の海外研修事業への派遣などを行っていましたが、現在の国際交流事業としては、ALTの招致による外国語教育と国際交流協会の活動支援にとどまっており、民間での交流の継続によって本町発祥の郷土芸能が多く、各地で歓迎され、各地で友好関係を築いてこられた江川太鼓の皆様のご功績はまことに大きいものがあり、改めて敬意を表したいと思います。こうして他国と交流することは、言語力やコミュニケーション力を高めるだけでなく、多様な価値感を学ぶことで自らを振り返り、私たちの社会や文化の再構築、そして地域理解にも繋がり、また近年高まっております、インバウンドによる産業や経済の活性化も期待されていると、こういうところがございます。このように国際交流には様々な切り口がございますが、何をねらいとするかということは、今後の国際交流活動を進める上で大切な視点であると考えております。古くからの中国地方随一の大河、江の川の水運に始まる、行き交う人々との交流そのものが本町発展の源であると考えております。こうした本町ならではの歴史的背景のもとで、半世紀にわたり活動を積み重ねられ、そしてグローバル化されて久しい交流が一層活発化するよう、今後、町として新たな施策を検討してまいりたいと考えております。

議 長

再質問ありますか。4番本山議員。

4番
本山議員

最近、去年ですけども、入澤荘を購入されました。そして、今年の4月には、デンマークの子どもたちが川本町へ来ると。そして6月頃には、25歳の女性でしたか、ワーキングビザを使って、川本町に1年間住まれるというようなこともお聞きいたしました。この厳しいコロナ禍を抜けまして、新たなこの時代へ向かう中、この川本町も何かこう刺激になるような、そういうものがあっても良いんじゃないかなと思います。私はこの江川太鼓のこの活躍といたしますか、まだ民間レベルの活動でございます。先ほどの町長の答弁をお聞きいたしましても、これからいろいろなことを考えていくと言われました。多分ですね、これからますますデンマークとの交流は江川太鼓は強くなっていく、そういう気がいたしております。拠点をここに築いていただいた、そういうことだけでも、国際交流の一つの足場ができたというふうに思っております。国際交流といたしますと最終的にはですね、教育交流とかです

4 番
本山議員

ね、イベントの交流、そして観光客、先ほどのインバウンドというようなこともございます。そして、最後には姉妹都市というようなことも考えられるわけですが、もう一遍お聞きいたしますけど、これから本当に今年になって活動が活発になってくると思いますけども交流が活発になってくると思いますけども、その民間交流が、本当にどの辺まで行ったら、町としては何とか、町の施策の中に入れていけるだろうかというようなことがございますか。どの辺まで、交流が進んだというような。

議 長

番外野坂町長。

番外
野坂町長

私、先ほど前段で少し述べさせていただきますと、先ほどの質問に対しても私どもの町ってのはその交流が交流を呼ぶ町であるということ。重ねて申し上げますやはりそのですね、やはりその江の川と共にあった町で、時に牙を剥きますけどもそれが交流を呼んでこの町が成り立って、そう意味ではいろんな場面でおっしゃるんですけど、この町自身にはですねそういうDNAが地域にもこの町にいらっしゃる方にも、交流のDNAが備わってるんだと私は思います。、それをですね、この地域の人たちがそういう、そうなる中で民間ベースで、こうやって50年間も続けてこられて、途中から平成に入って国際交流。やっぱり民間ベースで続けてこられたのを、どの段階からという、私のイメージはですね文化国際交流が、やっぱり経済交流を意識する段階に入った時こそ、やっぱり行政もですね、そこを意識しながらより後押ししていくんだらうなというふうに考えております。少し話が逸れますが、この民間の活動があったあと、そのあとに行政が投資するという流れをですね、江の川の繋がりで申しますとこの川本のまちづくりもですね、いつか触れたかもしれませんが明治20年頃に、これはまだ河川とか道路とかですね国が乗り出さない時点で、当時は国家警察でありました川本警察署長の呼びかけでですね、地域の皆さんが今の川本のベースとなる上・中・下の町を作り上げられた、あれはあそこにある碑があるとおりであります。それから後はですね、いわゆる国の支援が出てきた、そういう活動を重ねてきた結果、国も河川なり道路なり整備せんといけないという法体系が整備されて、そういう歴史があります。この町もですね今あえてもう災害から半世紀、これ基本的に民間の中で皆さんの努力で成し遂げられた交流が、今新しい可能性をですね、ウィズコロナからポストコロナになって、今議員がおっしゃったような動きが、今起きかけてます。そういう意味では、今年もそういう意味でのターニングポイントになるステージかなと思っております。やはり、文化国際交流からですね経済交流もしっかり意識しながら、さらにそれをやることでまた子どもたちの英語教育とかですね、そっちの面にもまた波及していくと思いますので、そういう可能性があればそういう意味では、文化経済のところ、いわゆる動きがあることでこの町も交流が事業及び事業をしたところへ新しい人がまた入ってきて企業化して参入していった、そ

番外
野坂町長 　　ういう歴史がですね、この国内だけの動きではなくて今、その積み重ねが国際的に、その呼び込みをきたタイミングでありますんで、これを将来的な経済交流にも生かす視点を意識しながら、地道に交流のですね、パイプを少しずつ太くしていく。そういう意味では、まさにこのタイミングが、そういう段階かなと思っております。従いまして、今まずある動きをしっかりとフォローしながらですね、どういう行政として民間ベースの活動をですね、公に、交流を太くしていく動きができるかどうかというのを一緒になって考えたいなと考えております。

議　長 　　再質問ありますか。4番本山議員。

4番
本山議員 　　ちょっとですね、文化交流とかですね、教育交流とかという点に関して教育課の方では、どのような捉え方ができますでしょうか。

議　長 　　番外坂根教育課長。

番外坂根教
育課長 　　教育課、教育行政の分野におきましては、今ALTの活用ということがございます。ALTとして招致する場合には、まずは英語ということが主眼に置かれます。今、江川太鼓さんが活動をして交流しておられる団体の中から、英語に堪能な方がもしおられれば、そういったところからALTとしてお迎えするというようなことは将来的に可能かなと思えますけれども、これもこちらが人を選ぶことができない事業でございますので、そういったことよりもむしろ、このようにこられる団体様の機会を捉えてですね、児童生徒と交流をしていただく場面を作るですとか、社会教育の分野で一緒に活動できる場所があればとか、そういったところで一緒に子どもたちにも外国の文化を味わって異文化交流ということをしていければなというふうに考えます。

議　長 　　再質問ありますか。4番本山議員。

4番
本山議員 　　今、前向きなご意見をいただきました。江川太鼓はですね、川本町の歴史の中で考えますと、この江川の氾濫、あの未曾有の47災害の歴史でもあります。ですから、それは歴史的に言っても重要な団体でございますので、子どもの教育にも、災害と合わせての教育という場面もできるかというふうに思っております。様々、前向きなご意見をいただきました。これからますます活発に民間レベルのこの活動が活発になった時にですね、是非とも何とかこの行政の方も応援ができるような、そういうふうになればいいなと私が勝手に思っておるところでございますけれども、よろしくお願ひしたいと思えます。地域の復興のあり方とか、そして今までになかったこの観光としての川本町のあり方とか、そして自分たちが気づかないこの地域の魅力が分かると、地元の人にもこの地域の魅力が分かるというような、そういう交流がですね、

4番
本山議員 | これから先できるような気がしておりますので、よろしくお願いをしたいと
思っ、この質問を終わります。

議 長 | 以上で、2項目めの「江川太鼓の歴史とその発信力による地域活性化・国
際交流の評価と、今後の展望を問う」の質問を終了します。

々 | これをもちまして、本山議員の一般質問を終了します。

々 | ここで、暫時休憩します。14時15分から再開いたします。
(午後 2時05分)